

## 事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	ナノ物質・材料創製・計測のための量子ビーム基盤技術の開発
研究責任者の所属・氏名	ナノマテリアル研究所 岸本 直樹
<b>【項目】</b>	<b>評価結果</b>
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本プロジェクトは、ナノマテリアルのキャラクタリゼーションにシンクロトロン放射光設備や中性子回折／散乱設備を使用することにハイライトを当てるものである。3D可視化は次世代のナノマテリアルの開発に極めて重要である。</li> <li>・X線反射率法の埋もれた界面に対する応用が重要である。これはX線反射率法の最も重要な使い道であろう。</li> <li>・優れた研究である。その分野の性格上高コストな研究である。研究成果当たりのコストの考え方は、他の研究分野と合わせて考えられる必要がある。NIMSはこの分野で国際的センターになることを狙うべきである。</li> <li>・使用する分析機器が高価になってゆくの、国際的な連携のもとでの相互利用が必要ではないか。</li> <li>・これは世界最高の設備／基盤施設を創設する一例であり、日本の研究の大きな強みとなる。この仕事は米国やヨーロッパでまねされることになるであろう。</li> <li>・個々の結果は非常によい。研究に対する先端の実験技術の寄与は、非常に良く表現されているとは言えない。実験結果や成果の記述は定性的すぎる。</li> <li>・非常に質の高い研究である。しかし、創造性の大きな要素はあまり見られない。世界最高の設備であるが、物理的キャラクタリゼーションと光学的／電子的特性をどのように結びつけるのかがポイントである。</li> </ul>
評価点	S, S-, A+, S-, S, A, A, A+, S, A+
総合評価点※	A+

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点(小数点第二位以下四捨五入)をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, (以下同じ考え方)・・・とする。